

福岡県八女郡広川町議会

事績 1 政策づくりと監視機能を十分に発揮している議会

今日、地域社会は、激動する社会経済情勢の中で、日々進展し変革しており、議会や議員もこれに的確に対処しなければなりません。

そのために議員は、単に町民の声の代弁者としての役割に終始するだけでなく、議員としての見識を高めるとともに、政策形成能力や問題解決能力を高め、住民全体の福祉向上と地域社会の活力ある発展を目指して、積極的に取り組むことが必要であります。

このため、広川町議会では、議員が独自に設定した行政課題や自己の政策目標に沿って行う調査研究事業に取り組んでおります。

具体的には、前記の目的に合う視察について、一人当たり12万円の研修旅費を予算化し、複数の議員で調査研究を進めていくものであります。その結果については、全員協議会において報告し、意見交換を通して議会全体の共通認識とするものであります。

本年度は、「防災」、「障がい者雇用」、「学校給食」、「文化財の保存」等について、5回に亘り事業を実施し、全議員がいずれか又は複数の視察に参加しております。

視察先の選定については、目的に合うものであれば原則自由としていますので、民間事業所などを訪問することにより、住民目線、企業等の立場が理解し易くなり、議会・行政がなすべきことがより鮮明になるなどの効果が表れております。

また、この事業で得られた成果については、一般質問による執行部への提言やその他の場所において政策形成のための大きな財産となっております。

さらに、本町議会では議員の資質向上に向けた取り組みとして、毎年、議員独自の研修会を開催しているところではありますが、特に、本年度においては、この調査研究において得られた知識やノウハウをより深め、政策に活かすことを目的に「新たな公共施設整備の手法—PPP」について、大学教授を招いての研修会開催に発展をいたしました。

個人の議員では困難な遠隔地の調査や常任委員会等の行政視察では得ることができない、個々の課題を焦点化して行うことができるこの調査研究事業は議員個人の資質向上や議会活性化の大きな糧となっております。

議員が行う具体性を持った調査研究事業であることから、今後もこの事業を積極的に展開し、地域振興についての具体的な政策形成と提言に結びつけることができるよう活性化を図ってまいります。

